

CASBEE京都-新築(2011年版)
【仮称】嵯峨天龍寺今掘町計画

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境					0.40			3.9
1 音環境				3.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策				-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	-	-	
2 温熱環境				1.8	0.35	5.0	1.00	4.8
2.1 室温制御				2.6	0.50	5.0	1.00	
1 室温				3.0	0.63	-	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				2.0	0.38	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				2.6	0.25	3.0	1.00	2.9
3.1 昼光利用				1.8	0.30	3.0	0.50	
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.50	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				3.0	1.00	3.0	1.00	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気環境				3.0	0.25	4.2	1.00	4.1
4.1 発生源対策				3.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質				3.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				2.2	0.40	3.8	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				4.0	0.29	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.12	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.29	-	-	

2.4 信頼性				3.0	0.19			
1	空調・換気設備			3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20			
3	電気設備			3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20			
5	通信・情報設備			3.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり						2.2	0.50	
1	階高のゆとり					3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)			1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					0.30			3.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮 快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)	3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性								3.7
LR1 エネルギー					0.40			4.6
1 建築物の熱負荷抑制				5.0	0.40			5.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20			3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)	3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				4.9	0.40			4.9
集住宅以外の評価(ERRIによる評価)				#VALUE!				
集住宅の評価				4.9				
4 効率的運用								
4.1 モニタリング								
4.2 運用管理体制								
LR2 資源・マテリアル					0.30			2.9
1 水資源保護				3.0	0.15			3.0
1.1 節水				3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	3.0	1.00			
2 雑排水等利用システム導入の有無								
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63			2.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	3.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			
1 消火剤								
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮				4.2	0.33			4.2
2 地域環境への配慮				2.9	0.33			2.9
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25			
1 雨水排水負荷低減								
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 交通負荷抑制				3.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音				3.0	1.00			
2 振動								
3 悪臭								
3.2 風害、日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制								
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)	3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる